

2023年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年3月3日

上場会社名 株式会社 アイホールディングス 上場取引所 東 札
 コード番号 9627 URL <https://www.ainj.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大谷 喜一
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 (氏名) 水島 利英 TEL 011-814-1000
 四半期報告書提出予定日 2023年3月17日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有（四半期決算補足資料は、適宜、当社ホームページに掲載いたします。）
 四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2023年4月期第3四半期の連結業績（2022年5月1日～2023年1月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2023年4月期第3四半期	263,906	12.5	11,685	14.4	12,367	14.5	6,628	6.4
2022年4月期第3四半期	234,610	6.6	10,214	49.9	10,800	37.7	6,231	36.2

（注）包括利益 2023年4月期第3四半期 6,643百万円（6.7％） 2022年4月期第3四半期 6,229百万円（35.3％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年4月期第3四半期	188.70	—
2022年4月期第3四半期	176.89	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2023年4月期第3四半期	229,562	123,743	53.9
2022年4月期	212,461	119,010	56.0

（参考）自己資本 2023年4月期第3四半期 123,674百万円 2022年4月期 118,923百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年4月期	—	0.00	—	55.00	55.00
2023年4月期	—	0.00	—		
2023年4月期（予想）				60.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年4月期の連結業績予想（2022年5月1日～2023年4月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	358,000	13.2	17,180	13.5	18,030	12.4	9,000	26.9	256.20

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
 連結業績予想の修正については、本日（2023年3月3日）公表しました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付書類8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年4月期3Q	35,428,212株	2022年4月期	35,428,212株
② 期末自己株式数	2023年4月期3Q	298,188株	2022年4月期	300,911株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年4月期3Q	35,128,813株	2022年4月期3Q	35,227,303株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算定しており、今後の経済状況等の変化により、実際の業績は予想数値と異なる結果となる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年5月1日～2023年1月31日)におけるわが国の経済は、緩やかな持ち直しがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響や物価上昇、金融資本市場の変動等により未だ不透明な状況が続いております。このような経済情勢のもと、当社グループは、薬局、店舗における徹底した感染予防策の継続実施により、グループ一丸となり医療・小売りサービスの提供に取り組んでまいりました。

当社グループでは、人々の健康や美に貢献する事業を通じ、さまざまなステークホルダーの皆様へ、「この街にアインがあって良かった」と感じていただける企業を目指しております。2022年11月には、マテリアリティ(重要課題)のひとつである「地域社会・取引先との連携」の実現に向け「CSR調達方針・ガイドライン」を制定、更に国連グローバル・コンパクトへの署名及びグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンへ加入いたしました。今後も、当社グループの事業を通じ、持続的な成長と、社会・環境・経済価値を創出するとともに、良識と倫理観を持った活動を推進してまいります。

当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高が2,639億6百万円(前年同期比12.5%増)、営業利益は116億8千5百万円(同14.4%増)、経常利益は123億6千7百万円(同14.5%増)となり、また、親会社株主に帰属する四半期純利益は66億2千8百万円(同6.4%増)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

(ファーマシー事業)

当社グループでは、医療機関等との連携、お薬手帳等を活用した服薬情報の一元的・継続的な把握、在宅医療対応等により、患者様が住み慣れた地域で安心して医療を受けることができるよう、「かかりつけ薬剤師・薬局」の機能発揮に取り組んでおります。

2023年1月の厚生労働省による電子処方箋管理サービス運用の開始に先立ち、当社グループでは、運用プロセスの確立や先進的取り組み、優良事例の収集、ガイドラインの策定等を目的とし、2022年10月末に開始された厚生労働省による「電子処方箋のモデル事業」に参画いたしました。現在、当社グループの全国の薬局において2023年1月に開始となった電子処方箋に対応するため、順次環境の整備を進めております。今後も、環境変化に対応し、患者様がいつでも安心して薬物治療を継続していただけるよう取り組んでまいります。

営業開発においては、引き続き、大型薬局の積極的な出店と投資回収を重視したM&Aを出店戦略とし、さらなる事業規模の拡大を行うとともに、店舗運営の効率化を推進しております。

当第3四半期連結累計期間においては、既存店の処方箋枚数の回復と前期出店した店舗が堅調に推移したことにより、売上高は2,363億9千6百万円(前年同期比12.7%増)、セグメント利益は180億2千3百万円(同1.3%増)と増収増益となりました。

同期間の出店状況は、M&Aを含め、グループ全体で合計130店舗を出店し、12店舗を閉店、7店舗を事業譲渡したことにより、当社グループにおける薬局総数は1,210店舗となりました。

(リテール事業)

コスメ&ドラッグストア事業は、新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、オリジナルブランドの見直し、事業構造の再構築を推進してまいりました。商品構成や出店基準の見直し、コスト適正化を進めた結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、188億3千6百万円(前年同期比23.2%増)、セグメント利益は7億3千7百万円(前年同期は14億7千4百万円の損失)となりました。

同期間の出店状況は、4店舗を出店、6店舗を閉店したことで、コスメ&ドラッグストア総数は76店舗となりました。

(その他の事業)

その他の事業においては、売上高は87億1千6百万円(前年同期比9.2%減)、セグメント損失は2百万円(前年同期は1億8百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末より171億1百万円増の2,295億6千2百万円となりました。主な要因は、のれん及び商品等がM&Aを含む新規出店により増加したことによるものであります。

負債の残高は、123億6千8百万円増の1,058億1千9百万円となりました。主な要因は、M&Aを含む新規出店により買掛金が増加したことによるものであります。

短期及び長期借入金の残高は、13億9千3百万円増となる98億5千2百万円となりました。

純資産の残高は、47億3千3百万円増の1,237億4千3百万円となり、自己資本比率は2.1ポイント減少となる53.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年6月3日に公表いたしました2023年4月期の通期連結業績予想を修正しております。なお、詳細につきましては、本日（2023年3月3日）公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	59,729	46,193
受取手形及び売掛金	10,110	11,269
商品	14,568	23,403
貯蔵品	222	226
短期貸付金	306	230
未収入金	11,832	10,431
その他	3,995	3,735
流動資産合計	100,765	95,490
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	17,512	20,591
土地	8,581	10,584
その他(純額)	4,542	7,343
有形固定資産合計	30,636	38,519
無形固定資産		
のれん	36,352	47,539
その他	4,866	5,570
無形固定資産合計	41,219	53,110
投資その他の資産		
投資有価証券	2,503	2,938
繰延税金資産	5,319	6,118
敷金及び保証金	22,785	24,823
その他	10,526	8,893
貸倒引当金	△1,294	△330
投資その他の資産合計	39,840	42,443
固定資産合計	111,696	134,072
資産合計	212,461	229,562

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	50,756	60,972
短期借入金	2,643	4,036
未払法人税等	4,391	2,242
預り金	15,415	18,885
賞与引当金	2,713	1,557
役員賞与引当金	18	10
契約負債	544	597
その他	5,321	4,520
流動負債合計	81,805	92,823
固定負債		
長期借入金	5,815	5,816
退職給付に係る負債	3,578	4,623
その他	2,252	2,556
固定負債合計	11,645	12,995
負債合計	93,450	105,819
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,894	21,894
資本剰余金	20,500	20,504
利益剰余金	78,661	83,357
自己株式	△2,018	△2,000
株主資本合計	119,038	123,756
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△39	△24
退職給付に係る調整累計額	△75	△57
その他の包括利益累計額合計	△114	△82
非支配株主持分	86	69
純資産合計	119,010	123,743
負債純資産合計	212,461	229,562

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2022年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2023年1月31日)
売上高	234,610	263,906
売上原価	198,110	224,213
売上総利益	36,500	39,692
販売費及び一般管理費	26,286	28,006
営業利益	10,214	11,685
営業外収益		
受取利息	31	36
受取配当金	35	62
受取手数料	11	12
不動産賃貸料	334	151
業務受託料	132	165
補助金収入	92	169
持分法による投資利益	2	—
その他	316	367
営業外収益合計	957	965
営業外費用		
支払利息	34	40
債権売却損	63	75
不動産賃貸費用	215	92
その他	57	75
営業外費用合計	370	283
経常利益	10,800	12,367
特別利益		
固定資産売却益	200	2
事業譲渡益	13	73
保険解約返戻金	4	35
段階取得に係る差益	131	—
その他	16	1
特別利益合計	366	113
特別損失		
固定資産除売却損	194	153
減損損失	61	183
貸借契約解約損	119	—
その他	54	36
特別損失合計	429	372
税金等調整前四半期純利益	10,737	12,108
法人税等	4,523	5,497
四半期純利益	6,214	6,611
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△16	△17
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,231	6,628

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年5月1日 至 2022年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2023年1月31日)
四半期純利益	6,214	6,611
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15	14
退職給付に係る調整額	30	18
その他の包括利益合計	15	32
四半期包括利益	6,229	6,643
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,246	6,661
非支配株主に係る四半期包括利益	△16	△17

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下、「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年5月1日至2022年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファーマシー 事業	リテール事業	その他の事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	209,793	15,286	9,530	234,610	—	234,610
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	71	71	△71	—
計	209,793	15,286	9,601	234,681	△71	234,610
セグメント利益又は損失(△)	17,784	△1,474	△108	16,202	△5,401	10,800

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,401百万円には、全社費用が6,195百万円、報告セグメントに配賦不能の損益(△は益)が△947百万円、セグメント間取引消去が152百万円含まれております。

なお、全社費用は、報告セグメント外の管理部門及びシステム物流部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年5月1日至2023年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファーマシー 事業	リテール事業	その他の事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	236,396	18,836	8,672	263,906	—	263,906
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	43	43	△43	—
計	236,396	18,836	8,716	263,949	△43	263,906
セグメント利益又は損失(△)	18,023	737	△2	18,758	△6,390	12,367

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△6,390百万円には、全社費用が7,269百万円、報告セグメントに配賦不能の損益(△は益)が△916百万円、セグメント間取引消去が37百万円含まれております。

なお、全社費用は、報告セグメント外の管理部門及びシステム物流部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「ファーマシー事業」セグメントにおいて、当社が株式会社ファーマシィホールディングスの全株式を取得したことに伴い第1四半期連結会計期間より、同社及びその子会社を連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において13,026百万円であります。

なお、同社は2022年12月1日に同社の完全子会社である株式会社ファーマシィ(広島県福山市)を存続会社とする吸収合併により消滅しております。

また、第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行ってりましたが、当第3四半期連結会計期間において確定しております。